

## 実施報告書

団体名 自然環境定量評価研究会

活動名 曾根干潟における貴重種の特定と保護・保全活動

実施月日	平成 28 年 5 月 22 日～平成 29 年 3 月 20 日
実施場所	北九州市小倉南区曾根新田地先 曾根干潟
参加人員	(会員・参加者など) 現地調査：7 月 31 日：8 人，9 月 17 日：11 人，10 月 1 日：10 人，2 日：5 人， 研究会：5 月 22 日：9 人，12 月 11 日：10 人，平成 29 年 1 月 15 日：12 人
活動内容及び成果	<p>活動内容および成果の概要について示す。</p> <p>1. 活動目的 曾根干潟には、カブトガニやヤマトオサガニ、塩性植物のシバナなどの絶滅危惧種や貴重種が生存していると言われている。これらの貴重な生物を保護・保全することが重要である。本活動は、絶滅危惧種や貴重種に着目して、それらの生物を保護・保全するための方法を究明することを目的とする。特に、今年度は大野川の河口付近に形成されているヨシ原で目視調査を行うとともに、新たに底質の硫化水素を測定し、カブトガニ幼生の生息個体数を調査した。</p> <p>2. 活動内容 (1) 曾根干潟に生息する絶滅危惧種や貴重種の有無や生息場所、および生息量を把握するために、上記の日程で現地調査を行った。 (2) 既存の調査資料を収集し、今回の結果と比較した。</p> <p>3. 活動成果 (1) 大野川河口ヨシ原における目視調査により確認された種は全 20 種（3 門 3 綱 5 目 13 科）であった。このうち、環境省および福岡県のレッドリスト等に記載された重要な種は 11 種（貝類 8 種，カニ類 2 種，魚類 1 種）であり、全確認種の半分以上を占めた。新たに確認された種はオカミミガイであった。また、4 測点で確認された底生生物は、6 門 7 綱 21 目 32 科 44 種であり、そのうち重要種は、貝類のヘナタリ、ヌノメホソクチキレ、ユウシオガイ、テリザクラ、コオキナガイの計 5 種であった。 (2) 発見されたカブトガニ幼生の個体数は、北干潟では 0 個体、南干潟では 406 個体が確認された。今回の調査では、すべての幼生が発見されたところは、貫川河口の南側で測点 P14 付近および P18 に向かうルート上であった。2006 年、2007 年までは、北干潟でも多くの幼生が見られたが、年を追うごとにその数は減少し、今回、調査範囲は限られているが北干潟で全く幼生を発見できなかった。このことは、仮設道路の設置との関係も考えられることから注視していく必要がある。 (3) 今回新たに調査した底質の溶存態硫化水素に関しては、調査した範囲において、全体的に南干潟よりも北干潟の方が硫化水素の値は高く、特に、St.2 (P9) で高い値であった。この測点では、CODsed とクロロフィル a に関しても他の測点に比べ高い値となっていた。これらの要因は、過去にホトギスガイが大量に発生し、その死骸が腐敗して底質を悪化させたことが考えられる。</p> <p>今回の成果を踏まえ、活動成果を一般市民向けにホームページに掲載した。</p>

平成 28 年度みなとと海辺の活動支援活動写真



調査前のミーティング



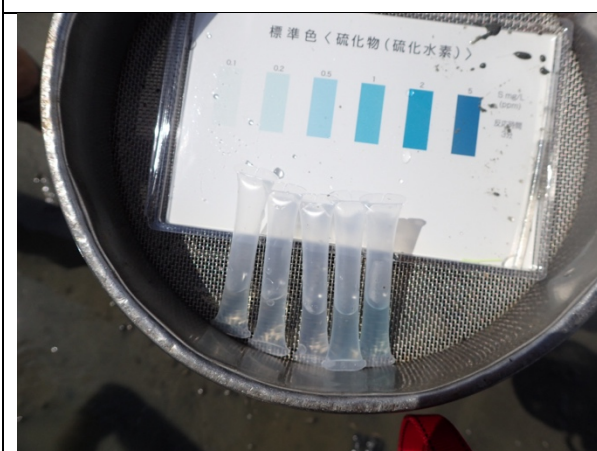
調査の準備状況



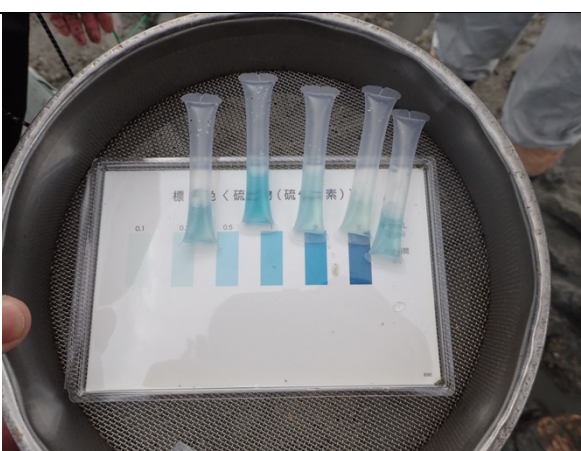
硫化水素調査



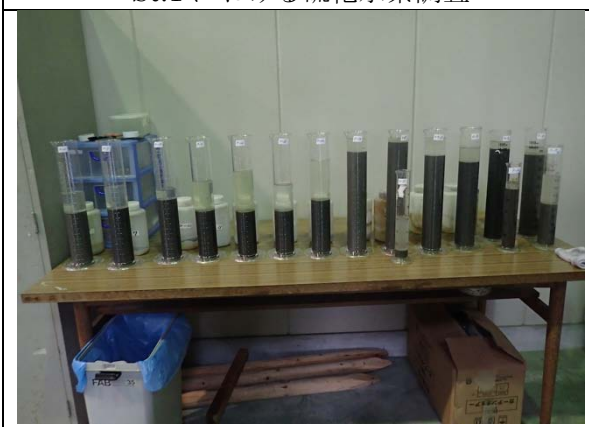
硫化水素調査



St.1 における硫化水素調査



St.2 における硫化水素調査



底質流動調査の沈降量測定 (2 週間)



底質流動調査の沈降量測定 (1 昼夜)

平成 28 年度みなとと海辺の活動支援活動写真



底生生物調査



底生生物調査



目視・コドラート調査



目視・カブトガニ調査



マテガイとオサガニ, アラムシロ



ヘナタリ



初日の調査終了時の写真



調査参加者の集合写真